

平成18年度鈴亀地区高等学校再編活性化推進協議会における

「課題の整理」

平成19年3月

- 1 平成16年報告書に基づく各高等学校の活性化に向けた取組状況
別添資料1（『各高等学校における取組内容』）参照
- 2 再編活性化に係る課題及び今後の対応
 - (1) 第二次実施計画で示された具体的課題
 - ① 家庭科教育の在り方
 - ア 白子高校生活創造科の教育内容は食物・被服が中心で大学との連携を目指しており、亀山高校総合生活科はヒューマンサービス（保育・福祉）が中心で地域との連携を強めており、それぞれが特色化を図っている。
 - イ 家庭関連学科の拠点化については、鈴鹿市及び亀山市の地域性を考慮して検討する必要がある。また、鈴鹿・亀山地域だけでなく、隣接する四日市地域にまで視野を広げて検討することも必要である。
 - ② 芸術関連学科・コースの整備の在り方
 - ア 飯野高校応用デザイン科と白子高校文化教養（吹奏楽）コースを一つの学校に統合することは意義がある。
 - イ 統合により必要な学習環境（施設・設備等）の整備及び特別支援教育との連携等を視野に入れ、総合的見地から検討を続ける必要がある。
 - ③ 定時制（柔軟な教育システム・教育内容等含む）の在り方
 - ア 不登校を経験した生徒及び外国人の生徒等、入学する生徒の背景が多様化するなか、北部地域の定通ネットワーク拠点校を中心として、より一層、連携・協力体制の構築に努める必要がある。
 - イ 社会の変化に対応し、定時制の果たす役割が質的に拡大していることから、生徒の多様な学習ニーズを踏まえつつ教育機能の一層の充実を図るため、亀山及び神戸両校を統合して、新しい柔軟な教育システムを有する新機軸の定時制を設置することも視野に入れて、引き続き再編活性化を検討する。

(2) 新たな課題等への対応

① 普通科の活性化

- ア 活性化への取組が進んでおり、各校において一層の特色化・魅力化を進める。
- イ 小中学校及び高等学校が一体となり、一層の学力の定着に努める必要がある。

② 学科の拠点化について

- ア 各高校が特色化・魅力化を図る一方で、保護者や生徒にとって学科・コース等の教育内容が理解しやすいよう、シンプルで分かりやすい整備を行うという視点が必要である。
- イ 石薬師高校普通科ビジネス系類型を中心に、生徒の学習ニーズに合わせて、商業教育が学べる学習環境の整備に努める必要がある。
- ウ 亀山高校システムメディア科はIT人材育成の拠点であることから一層の充実を図り、稲生高校情報コースは普通科の典型的なコースと位置づけていくことで相互の特色化を図ることとする。

③ 外国人生徒の教育環境の整備

- ア 日本語指導の必要な外国人児童・生徒数は著しい増加傾向にあり、生徒の母語数は増え、日本語能力の幅も拡大している。このようなことから、多文化共生社会を目指す本県にあって、当地域の外国人生徒の学習環境の整備は喫緊の課題である。
- イ 個々の学校や教員の対応では限界があり、抜本的な施策が必要な状況にある。そこで、外国人生徒の生活環境や労働環境等も視野に入れ、学習ニーズに対応可能な教育内容や教育システムを有する高等学校の整備を検討する必要がある。

④ 後期中等教育における今後の特別支援教育の充実（高等特別支援学校等）

- ア 杉の子養護学校のあり方を検討するなかで、高等特別支援学校等を高等学校に併設するなど、地域の特別支援教育の環境を整備する視点と、高等学校の再編活性化の視点とをリンクさせながら検討する必要がある。
- イ 今後の特別支援教育を充実させる視点から、軽度発達障がいのある生徒の高等学校における学習環境の充実を努める必要がある。

3 その他

第三次実施計画においても、地域の声を反映した再編活性化の推進を願いたい。

平成18年度 鈴亀地区高等学校再編活性化推進協議会 『各高等学校における取組内容』

平成19年3月

高校名	「鈴鹿地区高等学校活性化にむけて」(平成16年1月)より	平成16年度までのまとめの内容	その後の取組
神戸高校	<ul style="list-style-type: none"> ・理数科を核として進取の気風に富み重厚かつアカデミックな雰囲気漂う県内有数の進学校にならなければならない。 ・理数科を複数クラスにし一層のパワーアップを図るとともに、普通科の活性化を積極的に進め、いかなる大学進学にも対応できる学習環境や指導体制を整える必要がある。ここでは、とくに英語を中心とした文系の指導体制の強化も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適正規模化に努めるとともに、商業科は平成17年度に募集停止します。 ・定時制は、亀山高等学校定時制への統合も視野に入れて、多様な学習ニーズやライフスタイルに応じた柔軟な教育システムや教育内容等について検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全日制で、H17年度に商業科が募集停止、理数科は2学級となった。またH18年度より普通科における習熟度別学級編成を導入した。 ・定時制で、多様なニーズに対応するためH17年度より学校間連携(定時併修)、H18年度より三修制を導入した。またH18.2に定時制通信制高等学校北部地域再編活性化協議会が設置され、鈴亀地区も含めた北部地域の定時制の在り方が検討されている。

平成18年度 鈴亀地区高等学校再編活性化推進協議会 『各高等学校における取組内容』

平成19年3月

高校名	「鈴亀地区高等学校活性化にむけて」(平成16年1月)より	平成16年度までのまとめの内容	その後の取組
白子高校	<p>・今後は新しいアイデンティティを創造し、地域との関わりを強め、地域の活性化にも貢献できる『地域の高校』として生まれ変わらなければならない。</p> <p>・主たる目標は普通科の伝統の復活である。そのため、「分かる授業」と「達成感のある授業」の提供に向けて、習熟度別および小人数指導、進学指導プロジェクト・チームの創生による補講体制などを進めなければならない。</p> <p>・白子高校の特性を生かし専門学科を拡充することにより、地域中学生の多様なニーズに対応し、『行きたい高校』としての体制と学習内容を創り上げなければならない。</p> <p>・専門学科については、地域唯一の家庭科として学習内容を見直しリニューアルを図り、成果をあげている吹奏楽を足場にして音楽教育を広く提供することができ体制充実を図る必要がある。</p>	<p>平成16年度までのまとめの内容</p> <p>・従前の「生活国際科」を「生活創造科」と学科改編し、カリキュラムも根本的に見直し新たな学校設定科目を増設した。その中で、従来に無い「高大連携」の推進を目指したが、普通科高校に併設型の「食(調理)と被服」主体の家庭科では専門高校(農業高校等)との教育内容の違いが分ならず、生徒達の興味・関心の増大には結びつかない現状である。</p> <p>・県下で初めての、吹奏楽を教育活動の柱に据えた「普通科・文化教養(吹奏楽)コース」を設置した。特色ある授業内容で各自の音楽的能力を伸ばすと共に、教養豊かな人間性育成を目指す。その一環として、総合的に舞台芸術全般を学習させる「舞台芸術」の講座を2学年時に履修させた。</p> <p>・「教師力」、「組織力」、「環境力」の向上を目指し「授業自己評価・授業アンケート」を実施。H17年度作成の「学校白書」が好評であり、今後継続して発行し、学校活動のオーブン化に努力する。</p> <p>・「学校経営品質」の取組みを実践フォローする組織体制として「学校経営品質向上委員会」による各種PJを推進した。</p>	<p>その後の取組</p> <p>・新たな視点での「高大連携」に取り組んだ結果、普通科高校に併設の「家庭科」については、進学が就職かの旗色を明確にし、かつ、鈴亀地区のみならず北勢近隣校との新たな視点での分野別の拠点化構想を基に再編化を再考する必要があると思われる。</p> <p>・「学校経営品質向上委員会」を発展的に「学校品質向上委員会」に改称し新たなPJを推進した。主なものとして、「高塾連携」や「授業自己評価・授業アンケート」のさらなる推進、「白子版キャリア教育プログラム」の開発、「企業・大学合同ガイダンス」の実施、各種ボランティア活動の推進がある。</p> <p>・「高塾連携」については、さらに深化させた「白子塾・A塾」および「白子塾・B塾」の実施に漕ぎつけた。これらは外部教育力としての学習塾との連携であり、「A塾」は大学進学生徒向け、「B塾」は基礎力不足生徒の底上げ。「B塾」では驚くべき実態データの収集ができた。</p> <p>・吹奏楽コースとしては、「舞台芸術」の講座の成果として、台本、演出、作曲、衣装制作と調達、舞台装置の制作等々、生徒達手作りの「創作ミュージカル・大黒屋光太夫」を実現した(H19年3月)。今後も「総合学習と実践のテーマ」として継続していくのみならず、全校生徒を対象に出演者をオーディションにより選抜し、学校の一大行事化していく予定である。</p>

平成19年3月

高校名	「鈴亀地区高等学校活性化にむけて」(平成16年1月)より	平成16年度までのまとめの内容	その後の取組
石薬師高校	<p>・石薬師高校は、「心の教育の充実」と「確かな学力の向上」を達成しなければならぬ。</p> <p>・基礎学力・社会規範・基本的生活習慣・意欲と忍耐・環境を軸に、「当たり前前」のことが当たり前前にできる生徒を育てる学校」の実現を図り、どこに出しても評価される人材を輩出する、より地域に密着した高校にならなければならない。</p> <p>・ISO14001を生かし、また、隣接する消防学校との連携を図るなど、環境や防災に関わる事柄を専門的に学習できる体制を考へることも必要であろう。その際、神戸高校で募集停止となる商業科に代わり、商業系科目をより充実して学習できるようにすることも考慮に入れる必要がある。</p>	<p>ISO14001の手法を生かし、隣接する消防学校との連携を図るなど、環境や防災に関わる事柄を専門的に学習できる体制を考へることが必要である。また、商業系科目をより充実して学習できるようにすることも考慮に入れることが大切である。</p>	<p>平成17年度に目指す学校像を「清新にして活気に満ち、一人ひとりを生かす教育を実践する学校」と改めた。安全・安心・環境、人権を軸に、その実現を図り、どこに出しても評価される人材を輩出する、より地域に密着した高校の実現に努めている。</p> <p>平成17年度より、学校リフォーム委員会を立ち上げ、活性化を進めている。</p> <p>平成18年度入学生から教育課程が新しくなり、特色のある5つの類型を選択して学習できるようになった。</p> <p>【5つの類型】 環境防災系、生活文化系、ビジネス系、アカデミック文系、アカデミック理系</p>

平成18年度 鈴鹿地区高等学校再編活性化推進協議会 『各高等学校における取組内容』

平成19年3月

高校名	「鈴鹿地区高等学校活性化にむけて」(平成16年1月)より	平成16年度までのまとめの内容	その後の取組
飯野高校	<p>・応用デザイン科の各コースで現在学習している内容について、今後は油絵、日本画、彫刻の美術分野と服飾デザイン、商業デザイン、コンピュータグラフィックスなどのデザイン分野に大きく分けて深く学習し、個性を伸ばし進路に合わせて学習できる体制が必要である。</p> <p>・英語コミュニケーション科の充実のためには、地域社会や中学生に学科の特性について広く周知させたい。新たにビジネス英語など生徒の学びたいカリキュラムを膨らませ、英語コミュニケーション科で学ぶことの意義を幅広く考える必要がある。</p>	<p>1. 外部評価を活用した教育活動の改善の取組 ①生徒による授業評価の実施(毎学期末) ②生徒・保護者・教職員による学校評価アンケートの実施 ③授業公開の実施 ④学校の特色化の推進と広報の取組 ⑤玄関ギャラリーの設置 ⑥「アカデミア三重」事業による開放講座の実施 ⑦高校生活入門講座の2回実施 ⑧サイパン修学旅行を通じての平和学習の実施 ⑨(応用デザイン科)卒業制作発表会への貢献 ⑩(応用デザイン科)卒業制作画集の作成 ⑪(応用デザイン科)卒業制作発表会の実施 ⑫(英語コミュニケーション)サイパン修学旅行における現地校との交流 ⑬(両学科)高大連携授業の実施</p>	<p>1. 学校改革・学校経営品質推進の取組 ①学校改革委員会の設置と、委員会を核とした年間を通じての学校経営品質向上の取組の実施 ② 学科の活性化・特色化推進の取組 ③(応用デザイン科)我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業(国立教育研究所)の実施 ④(応用デザイン科)四日市中部近鉄百貨店アートホールにおける作品展の実施 ⑤(応用デザイン科)全日制20周年記念拡大卒業制作展の実施 ⑥(英語コミュニケーション)学生のカリキュラムを改定し、地域の要望に応える、難関大学への進学希望実現のためのコース(類型)を設定 ⑦(SEL-Hi(Super English Language Hi-School))への応募と、実施に向けた準備 ⑧(両学科)全国の先進的高校へのベンチマーキングの実施 ⑨(両学科)高大連携による授業の実施</p>

平成18年度 鈴亀地区高等学校再編活性化推進協議会

『各高等学校における取組内容』

平成19年3月

高校名	「鈴鹿地区高等学校活性化にむけて」(平成16年1月)より	平成16年度までのまとめの内容	その後の取組
稲生高校	<p>・地域性を生かした普通科として、平成16年度から普通科にモータースポーツなど多様な選択肢のある類型制を導入する。</p> <p>・本県唯一の体育科教育の一層の充実を図り、本県スポーツの拠点校として確固たる位置を築くとともに、スポーツ指導においてジュニア層からの一貫性を追求し、スポーツの発信地として地域に貢献できる高校を目指さなければならぬ。</p>	<p>『変わろう稲生 変えろ稲生』を改革のドライバーガンとしカリキュラムの変革、生徒指導、地域との連携を中心に据えて取組を行ってきた。特に、普通科においては『7つの類型』を置き生徒の興味関心を引く教育内容とした。このことにより生徒が主体的に授業に取り組めるようになり活性化を図ることが出来た。同時に生徒指導の在り方についても検討を行い、生徒全員が明るく、活気に満ちた学校生活環境を整える取組を行った。</p>	<p>『社会で役立つ人材を育成する』を稲生高校のあるべき姿として新たに策定し、全教職員が一丸となってあるべき姿を創出するため取り組んでいく。学習面においては、稲生高校普通科の特色である7つの類型をより一層充実させるために、地域との関係をさらに強化し、地域社会の教育力及び様々な資源を学校へ取り込む工夫や、学校の持つ教育力を地域に還元させる取組などを積極的に進める。また、スポーツや情報教育における学校が持つ資産についても積極的に生かして、地域から信頼される学校づくりをする。特に学校経営品質向上の手法を積極的に学校改革に取り入れていく。</p>
亀山高校	<p>△</p>	<p>地域の中学校や適応教室等との連携を図り、不登校経験者や外国籍生徒等の受け入れを図る。外国人講師を招聘し、多文化共生のための国際理解教育講演会を実施した。また、上級学校の国際関係学部との交流を図る。群馬県や浜松市へのベンチマーキングを実施し、国際理解教育の充実を図る。</p>	<p>地域の中学校や適応教室等と連携し、情報の共有化を図り、不登校経験者等、多様な生徒の受け入れを図る。また、外国籍生徒を受け入れるなど国際理解教育の充実を図る。授業の工夫や体験型行事を実施し、多文化共生を目指して学校の特色化・魅力化に努める。</p>

平成18年度 鈴鹿地区高等学校再編活性化推進協議会 『各高等学校における取組内容』

平成19年3月

高校名	「鈴鹿地区高等学校活性化にむけて」(平成16年1月)より	平成16年度までのまとめの内容	その後の取組
全体	<p>・基礎基本の徹底と生活習慣の確立を基本に、知・徳・体の調和ある成長を図り、地域社会、国際社会で活躍する人材を育てることが必要である。</p> <p>・鈴鹿地区の全高校が、それぞれ整合性のとれた役割を担わなければならない。</p> <p>・既存の5高校全体で統廃合も含めた再編化策を構築しなければならない。すなわち、短期的に各高校が目指した姿を実現した上で、さらにそれを発展、昇華させることができなければならない。</p> <p>・各学校が自己評価、外部評価、学校経営品質に対する取り組みを推進し、地域社会からより一層期待される学校をめざさなければならない。</p> <p>・大学進学を目指す高校は、(中略)設置学科の整理を推進し、進学希望の生徒に対して他地区に劣らない徹底した進学指導を行う必要がある。</p> <p>・その他の高校については、大胆な高校の統廃合を視野に入れ、(中略)既存の各高校の特色を十分生かし、魅力ある学校を目指すことが必須条件である。</p> <p>・高校の統廃合については、(中略)工業系、総合学科、芸術系、環境等を学習できる体制、多様な形態の高校(単位制高校等)、公設民営の高校等の設置も含め継続的に検討すべきである。</p>	<p>平成16年度までのまとめの内容</p> <p>・「定時制通信制高等学校北部地域再編活性化協議会」が平成18年2月設置され、神戸高校及びひょう山高校等の高校、生徒、PTA、中学校、教育行政機関、学識経験者が一堂に会して協議を始めた。</p> <p>・「三重県における今後の特別支援教育のあり方検討委員会」において、特別支援教育に関する今後の基本的な視点及び方向性を示した報告書が平成18年3月とりまとめられた。</p> <p>・鈴鹿市のすべての公立学校で平成17年度から学校経営品質向上にむけた取り組みが始められた。</p> <p>・平成18年度の県立高校入学者選抜から、海外帰国生徒・外国人生徒等に係る特別枠について、単位制高校の設置学科・コースにも拡大された。</p> <p>・平成18年度協議概要</p> <p>(1)平成15年度報告書を踏まえ、各校が特色化・魅力化を推進。</p> <p>(2)進捗状況の確認及び5つの課題を中心に定時制のあり方も含めて協議(3回)。(5つの課題) i 普通科の特色化・魅力化、ii 学科・コースの拠点化、iii 外国人生徒への対応、iv 不登校生徒への対応、v 特別支援教育の充実</p> <p>(3)引き続き、方向性の検討を継続</p>	その後の取組